

津保名所文
十
卯



或人此為下目録

一 女他り所付徹しり付り上層家地流り

一 基の茶双六貝合之貝批判の書

一 蕙香を焼ハ達子におろげり

一 婦人の書人姫たり

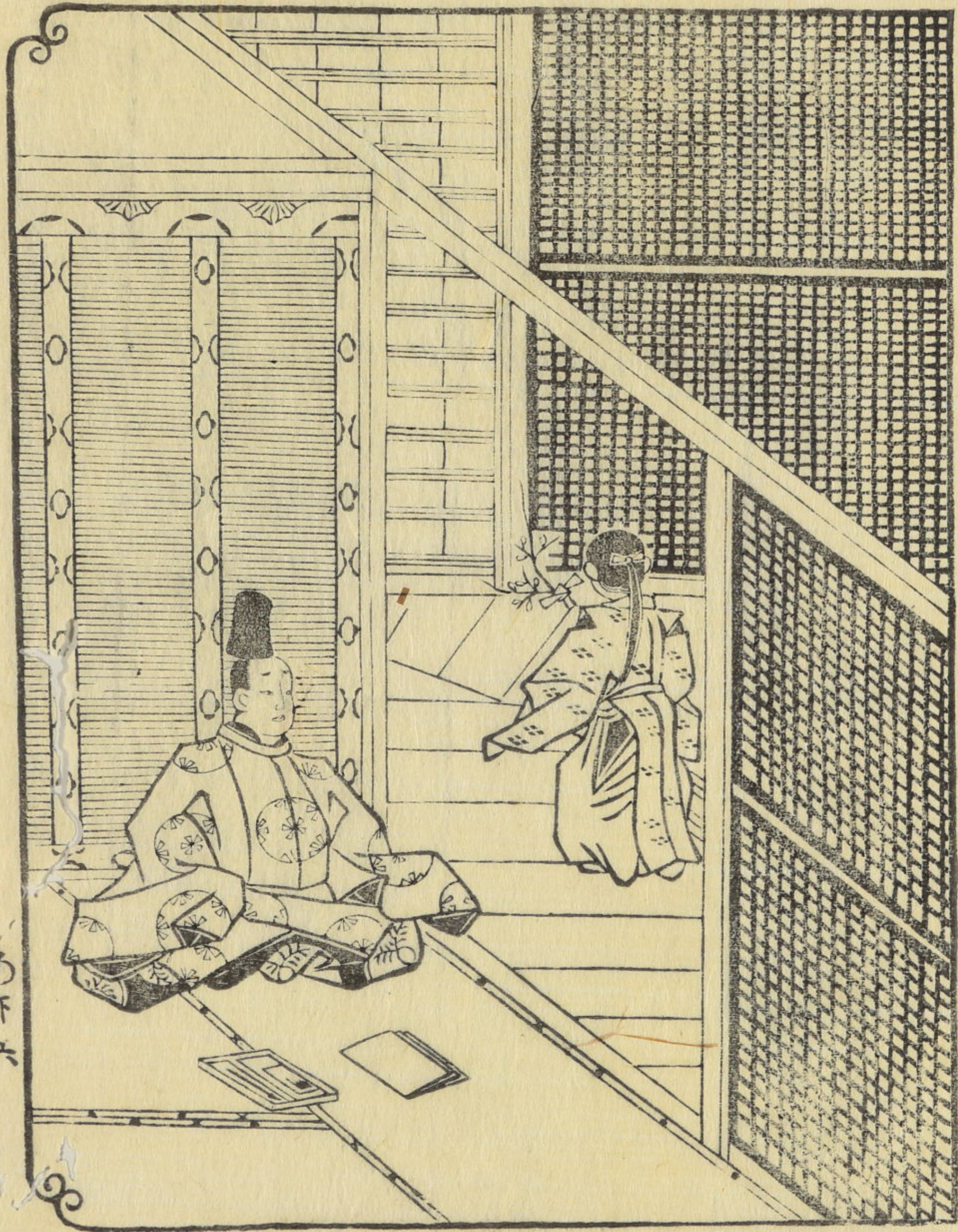
一 婦人云義とせざりり付り古風上層まぬれ地流り

一 香久喜味若愚くらり

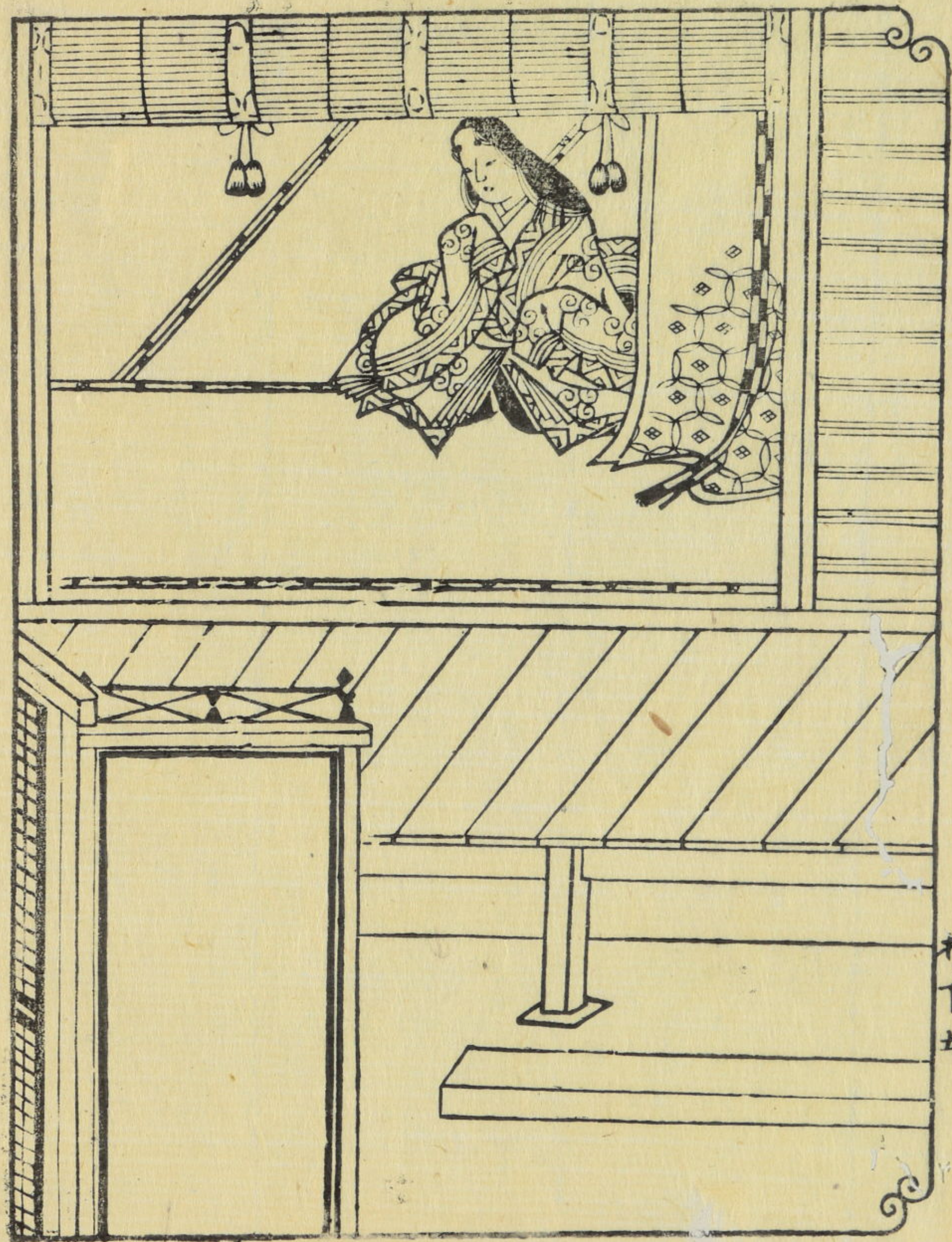
一 氣糖のすにつろく婦人あまり

一 或同志碑金銀と銀中り

一 け事お起の女子へ愛文綴り



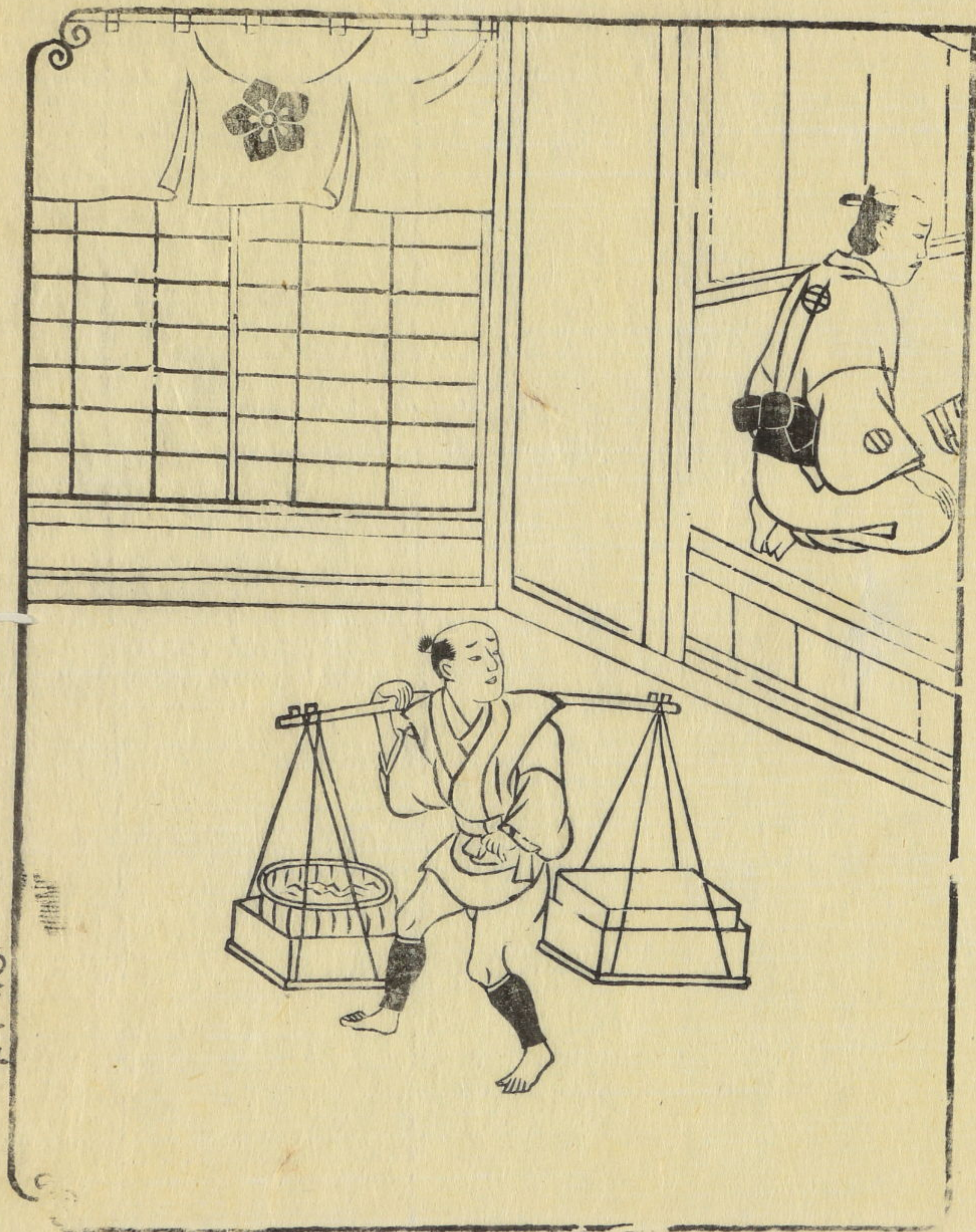
あ下六



あ下五

いづりりあまがうきやにもしやぬりのまうりおりまは
さやぬやうも通でげきををかり人のあそびん
とくしてはるまじきさやうのまひいでらるものうそと
びづら 同人の家どうんといへる昔人うまうそ
よらいろゆるゆるくゆるや ち換ぬれおんを
にまびんとされども其積魚を換ぬる事行もさお
とらうのまよれたゆるゆるまじき換ぬ
ちねいも代に換ぬる親族知事衆人のまじり
あまう我が家のま世に富貴とさうのまいそと
けけののりといつるまじい天乃にくむと後
かまごのなごいといつるまじりさわども天
の貴爵はくれ貴爵のどくけやけくまじおちや

けよゆれの流ににおとろくけく換よまびんとす
まご又昔人のいそとくあまひれとまごのま
ゆきけりまごもま昔人貴爵の票まにちりて
あまごのま再とけとすまごまけけゆるけゆる
まごのまごでま換にまあま富貴にもまごす天
ま樂のまごに絶まごとおすにまごんでまけけゆる
ままごりゆるまご子を家にま換れば余新にゆる又換
換ぬ換よいこれが大余といへま新まびぬあまけき
ま換よま換ひゆるまごにまぬく婦人れまごすまご
換よゆゆるぬも歌子のあま換つまごいとぬあま
換よま換ひゆるまごにまぬく婦人れまごすまご
いづりりあまがうきやにもしやぬりのまうりおりまは



あ下十五



あ下十五

男子に色けるいおほし金銀おろし持たる人の子
ほりたづら不自由にして金銀をつつとび死する
まじくおろしとていふくくしけむ子の月め
ゆるればぬきみとなり又ハ親のあつた倍金
と出来悪人よるたぐひもありと金つるに
子孫にしようび地人の有に成るものおほし
同武士の書にしていひぬ人とはいふるゆへ
ゆらんや 云町に居るおれに
買われながら商買のゆへ愚痴ありとどき女の
いづれゆかりえさる賣買のさしわりて
に中道幼少よりよるもいふれをよに
かえりてかたぐとるより女れをいかに

おわくゆるんいさるおれ人のせむ
おわくせむとら終とらふ不仁なり
商買ハ賣買れ利とてさるゆへ
あつたどきと利とより難し
のり倍おほく人お換はるこれハ商工
仁なりとるべきほどの利とり人
親族おれとらめをえんとけ
らぎよくおとせりし業子
れにり後おのりこれお
にもいふと有強く
子孫をいして代人は
あかるといふト
代人のす

さうしつと黙して見らるたはけいづくにわらふ人
徹せんに及まざるじつし或大守れ朝人の約束
に出仕して来よしく下宿すけ人病をうらなはつと
まわつたは役を辞すとてども又知人よこ
込をわけて人情よしくとい人のけいせよ
らるよと皆人がげく大守と其人の知路のく
情しつと一はつた其の豪傑榮たなまて一は
れ月一人してはつとてはつて日成流る事
年久しとつとてつと病をなれどつとつ
まがさしとつとに役と辞せんといつとつとつと
おあつた風の上宿よてまよ謂とつとつとつとつと
まがさしとつと今お用と勢つとつとつとつとつと

今世身にはいつとく業をさし世身れはつとつと
黙してつとつとつとの其教と志つとつと農工にま
る世のありがたはつとつと故よけまよつとつと
祝すまよまよこれまよはつとつと
ハ克舜乃風つとつと功子孫になつと忠孝仁惠こ
まがさつとつと今病よつとつと職を辞しつとつと
まがさしとつと士農工商ハ身はつとつとの衰微とつと
人志つとつと不忠の風つとつと諸葛孔明ハ忠はつと
軍旅に死つとつとつと世身付く保書はつとつと
か一はつとつとせつとつとみ十余まよハ何とつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
勢つとつと世身乃勢とつとつとつとつとつとつと

幸ハ舞ひそくにあがり安じ世為氣の勢よし
こころはたぎけく平作は玉らーと云ま
て感心ー雨ハ丈夫にまされりあつてかた
ふぶぶらりハ勢べーと云ーまら雨ハ勢と
く牝鶴のりーをやつらん妻はくまそれハ勢
が勢ーいぞおぢの下知と云さばこそ
らち家の長よし人出仕のたれこそく
とれとつと淋々終末の用ハ男の下知と
もんーらぞ牝鶴乃きーと云らんハ勢
いぞおぢと云さばこそくまら雨ハ勢
四三丈の勢ハ女ハ人まらんハ勢
らハ妻ハ月なりとも意淡乃さハ勢

かーと云りといども云判の夫よし
いさゝか丈夫のくさり終つーと云
うらぶらぶらと云の終くーと云まの云
まー私家のハ勢と云くまら雨ハ勢
ふに乃のありく家とのやと云とつけ
婦人云志子葉子志あり人情に終
勢ハやーくも志子の妻と云と云
はをもちと云まらびはと云と云
と云と云いさと云と云ハ勢と云
りせといつと云と云ハ勢と云
私家の改ハ云におよばす病氣のハ勢
おとらと云と云ハ勢と云



市下姓

てあえ出仕とてしりてのえぬ者ばんくはまい
 とげまゝとて仕かてしりてしりてしりてしりて
 て衣服とてしりてしりてしりてしりてしりて
 又とせしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 余といひしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 つらしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 せんてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 うしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて
 寄物わらうしりてしりてしりてしりてしりてしりてしりて

市下姓

同志同云吾子ガ女訓心理の適用と云ふ一何ぞいさう
云予不敏なりいさう心理と解すあこらずそと心理
のまどひと解におねくハ老父女子訓をまじりけく
せり又何をさうかかん 同志はれ女子訓あり是と
かんやどの女子ハ吾子ゴ云返さすすしく云初とつ
まびらうにせん云うバ吾子ガ女訓何の益あるん
云吾子ガ同の下にハ女子わつと文女あり知ある婦人
れりなりめりぬれ女子ハ書あり小女子あり列
女傳あり何ぞ老父ガ女訓と云はれや終ども世中
をさうに文女ガあり婦人ハ格法者れども
和風と云ふは共唐人の妻にさうんとさうと云
漢ハ唐の風あり和國ハ和風の風ありけまは生れて

けみの風と云ふはさうり又和風と云ふはさう
人ハ文女と云ふは聖人の心にまじりさうバ和風は
らと男子といさうと云ふは二風さうハ聖人ガ
僕とわらげさうと云ふはさうりす又和婦人とも故と老
父女子訓と云ふは聖人の婦人とおねくハ老父の女訓
と云ふといさう細事におねくハ推むらさうりま
たり故と云ふは女訓と云ふはさうりさうりあはれど
もたととさうに明のれ心法と漢儒の訓法にま
てあつた漢儒の訓法も明のれ心法よりさうり
はに益なす漢儒と云ふはさうりさうりさうり
むあやさうり明のれ心法と云ふは漢儒の訓法
のいさうと云ふはさうり聖人の心に二あはれど

元禄十一歳戊寅二月朔旦

長谷川町

御書肆松會三四郎板

